AAFC
我孫子オーディオファンクラブ会報
第9号

新年にあたっての目標・所感など

四名の方々にご投稿いただきました。　尚、順不同・敬称略です

《私の本年の目標》　小笠原　富雄

もう年も年なので拘貧というほどのものもありませんが、今年は蓄音機を作りたいと思っています。

ＧＭＥ（後掲の様なラッパ型の蓄音機）をモデルにした大きな音の出る蓄音機です。

蓄音機で聴くＳＰレコードの音は周波数特性ＳＮ比、鮮明度などは全てＣＤに劣りますが、不思議と魅力があります。また中を開けてゼンマイ・モーターの動きを見ているだけでも楽しいものです。

それから、モノラルＬＰのイコライザー・アンプの製作です。

古物好きの私は一時期、昔のモノラル・レコードばかり集めた時がありましたが、どうしても良い音で鳴らすことができませんでした。

しかし最近イコライザー・カーブを変えることにより良い音になることが実感できるようになりました。

手持ちのモノラル・レコードを蘇らせるようなイコライザー・アンプを作りたいと思っています。

最後は、長年の懸案であるＬＰレコードの整理とリスト作りです。たいした枚数を持っている訳でもないのに、聴きたいレコードが見つからずに聴くのを諦めてしまうこともしばしばです。聴きたい時に聴きたいレコードが取り出せるようにしたいものです。

あとはゆったりと貧いで良い音楽を聴くことです。　音の良否を気にせずに・・・

《三つの目標を目指して》　上野　康永

我孫子の駅でこのクラブのポスターを見て、はや一〇年がたちました。軽い気持ちで足をふみいれてみたが、そこにはオーディオマニアのおじさん達がいた。最初は何度も行くのを躊躇した思い出があります。なかで私の目をひいたのは、真空管アンプを自作してる人達、なにやらよくわからない回路図やら部品へのこだわりの話を聞くのが楽しかった。それから自分でも作ってみようとしたが、未だにその目的には到達していない。隔週で行われている会では二名の人が順に発表を行っているが、私の出し物は必ずデジタルでサンプリングし打ち込みというコンピュータ音楽が主だ、世代の差を感じている私は、ＪＡＺＺやクラシックなどといった背伸びをしてみんなに合わせるより、その方が他の人が新鮮に感じるかな？という考えから、あえて得意分野を披露する形にしている。時より私の発表時に退席される方もいても気にしない。

まず１つ目の目標はこれからもこの精神を通し貫くこと。

さて２つ目は、ＣＤ、ＤＶＤときてこれからＢｌｕ－ｒａｙへ移って行く時代の中、最近はＤＶＤオーサリングをよくする。音楽も楽しいが映像もかなり楽しい。当初八ｍｍカメラで録画した会のイベントもＤＶテープに移行し、記録班としての私は記録保存された物を会の皆さんに見せる機会はすくない。編集しようとして一年がすぎ、眠っているテープが多い。同様にポスターデータも保存している。そういった財産を整理してどしどし公開していこうと思います。

３つ目は、昨年の戸建ての購入によりオーディオスペースが広がり、隣をきにせずボリュームも大きくすることが可能になった。ずいぶん音楽を楽しむ環境が整った。ここで何かオーディオ機器のアップグレードを出来ないか検討してみたいと思う。

《音楽は日々の糧なり、音楽の無い人生は考えられない》　赤田　勝彦

顧みればクラシック音楽鑑賞を趣味とし、その再生手段としてのオーディオなるものに染手し５０数年が過ぎた。思えば随分長い道のりであった。生来の収集癖で社会人になってからはニューヨーク、アトランタ勤務時には米国イーストコーストメーカー製の、香港では英国製のスピーカーやアンプ等を次々と購入し、家族 友人達から揶揄されながら狭い室内に５セットものスピーカーが鎮座したこともあった。

しかし現役引退後は落ち着き、日頃よく聴く声楽 弦室内楽再生に最適だと納得するイタリア製のAmati Homageに巡り合い ようやく機器遍歴に終止符を打った。

これからは買いだめした未聴ソフトをじっくり鑑賞したいと思っている。

モーツアルトの時に比し喧伝はされていないが２００９年は私の好きな作曲家ハイドン没後２００年、ヘンデル没後２５０年、メンデルスゾーン生誕２００年と言う記念の年にあたり彼等の作品を改めて重点的に聴いてみたいと思っている。なかでもヘンデルのオペラは近年ヨーロッパではブームの様相で数多くの作品が上演されており映像も多数ＤＶＤになっているので楽しみだ。

ここ数年、ホームシアター用映像再生機器の技術革新顕著で最新のブルーレイレコーダーも普及価格帯になりホームシアター用に導入したいと思っている。

音楽 舞台 美術が融合した総合芸術であるオペラは劇場に足を運び生で鑑賞するのが一番だが、日本にいては演目、公演数が限定されており、古今の名演を自宅で鑑賞できるホームシアターは有難くいい時代になったものだ。未視聴の作品との出会いに大いに期待したい。今年も音楽で豊かな時間いっぱいの日々を送りたいと願っている。

《悩み多きオーディオライフ》　山本　一成

年初に冒頭から相応しくないタイトルだが、過去延々と続いた様々なオーディオに対する悪戦苦闘を思い起こすと、今年も又始まるのかと辛さと不安を感じてしまう。実は、昨年は年初から秋口まで、私の装置はそれまでの努力が実を結び最高の状態で（あくまで私の主観）、これでやっと「音楽に浸れる、努力は報われるのだ、『求めよ、されば与えられん』なのだ」と感じ入っていた。

以前から、「オーディオ装置は音楽を聴くための道具に過ぎず、装置のことばかりに拘泥し過ぎると、正しく音楽を聴くということから乖離してしまう」、ずっとこの想いが頭から抜けきらず、早く脱却したいと思っていた。やっと満足いける状態と実感した時には、これで落ち着いて音楽を聴く事ができると喜んだのだった。ところが、秋以降、私の体調が崩れ始めると、時を同じにしてアンプ類に不具合が生じ（音自体は良い状態で鳴っていたのだが）、多少の不安があったが思い切って修理に出してしまった。果たして戻ってきた音は、「あァ―、まさかの不安が的中してしまった」である。

全く感性の乏しい音が出てきてしまっている。私の調整ポイントの一つである「音のバランス」が崩れてしまっているではないか。それからは、体調も悪かったのとショックで聴く元気も出ず、アンプのスイッチを入れることも億劫になってしまっている。

そうだ、これではいけない！私の装置はもはや私の身体の一部なのだ。一心同体なのである。昔、会員の誰かが「オーディオは格闘技だ」と言った事を思い出した。やはり「自分の満足しない音で音楽を聴くことは出来ない」年が明け、体調も戻りつつある。今年も振り出しに戻って辛さと不安に対して再チャレンジである。

発行　我孫子オーディオファンクラブ　　編集責任者　倉田　勲
ホームページ　アドレス　http://www.aafc.jp/
２００９年２月８日